事例No.	2067
公表年度	R4
団体の属性	都道府県
団体名	福島県

事例区分	DX

タグ	・EBPM ・（行政改革）業務の効率化 ・AI

事例種類	農林水産業

事例内容・タイトル

AIを活用した福島牛の品質向上の取組

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

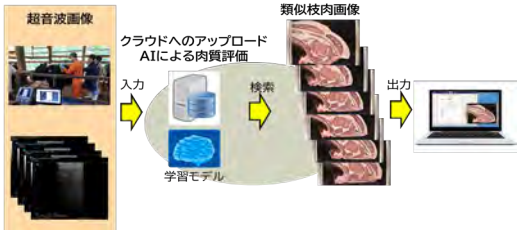
87 AIを活用した福島牛の品質向上の取組【福島県】

事業の概要

○ 福島県では、「福島イノベーション・コースト構想」の下、「福島牛」のブランド力強化のため、帯広畜産大学等と連携し、成育途中の牛の肉質をAIで診断するシステムを開発した。

○ 飼育中の牛の超音波画像と、と畜後の枝肉を撮影した画像をAIに学習させ、ビックデータとして蓄積し、成育途中の牛の超音波画像データから将来の枝肉の横断面を推定する。これにより、飼育効率や畜舎回転率を向上させることができる。

○ 当該システムの活用により、飼育コストの削減や良質な牛を揃えることでブランド力を強化し、風評被害を克服し生産者を支援する狙いがある。



イメージ図

【参考情報】 人口：186.3万人
関連URL：https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37202a/ushi.html
（県HP）

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー



取組の経緯・きっかけを教えてください。

（総務省）



原発事故による風評被害により県産和牛肉は、全国平均より１割安く取引されています。ブランド力の回復には、斉一性の高い優良な牛肉を定時定量で出荷する必要があるため、本取組を開始しました。

（福島県）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



成育途中の牛の肉質をAIで診断するシステムにつきましては、「福島イノベーション・コースト構想に基づく先端農林業ロボット研究開発事業」（農林水産省）を活用しました。



事業の近況を教えてください。



開発に協力をいただいた農家とともに、本システムの実証を実施しています。また地域の農林事務所、家畜保健衛生所および関係機関が連携して推定精度を向上させるため、と畜前の超音波画像データを収集しています。

★担当：福島県農林水産部 畜産課★

令和3年度事業費　212,129千円